

民主化運動の旗手 チャムロンさんの魅力は？

実行する「タイのガレッジ」

タイ民主化運動の旗手、前バンコク知事、チャムロンさん(五)が先月下旬から今月初旬まで、農業研修団を引率して来日しました。「五月に起こった流血事件時のイメージが強いのですが、素顔はどんな人なのでしょう。なぜ、彼を中心に、あれだけ運動が盛り上がったのでしょうか」(京都府相楽郡山城町、広瀬みゆきさん)との質問。五日間にわたって、密着取材した社会部、高橋弘司が豊富なエピソードから、独自の分析を加えました。今週はQ&Aを含め、「トーク面国際編」をお届けします。

黙々とビニールを拾っていたといえます。外国に来てまで、ゴミ拾いをする姿勢に、私は自らを省み赤面する思いでした。

岡山市では、田んぼで下草刈りの実習も。スボンのすそをたくし上げ、麦わら帽子をかぶって草刈り機を押す姿は、絵になっっていました。自らも農業を営む氏ならではの。

食事は、朝の一食だけ。自宅ではふとんの上でなく、板の間に寝る。たばこ、酒はやらない。バンコク知事時代は汚職を徹底して追放し、給与も「軍人恩給があるから」と受け取らず、「ミスター・クリーン」のニックネームで呼ばれた、などなど。

と、一人だけサツと別室へ。そばにいた日本人たちは、あ然として互いに顔を見合わせました。

指導の農家の人は「日本の知事が、こんなかっこうしたのは見たことない」と飾り気のなさに感心していました。

正直に告白すると、記者は当初、「そんな聖人のような人だ」としてました。来日二日目、岡山市の農協のことです。チャムロンさんらは、午前中、三時間みっちり有機農業の講習を受け、昼食になりました。「とてもきれいでおいしそう。レストランの料理のようですね。ありがとう」。農協婦人部の女性たちが手作りした料理を前に、彼は「こやかにお礼を言いました」。

「日本には『郷に入っては郷に従え』ということ。せつかくのごちそうで、ギンクが日課と聞き、同行しました。午前六時過ぎ。彼が例

「彼はきつと、タイのガレッジと呼ばれる存在になる」。同行していたタイ紙記者の言葉に、こちらもうなずいていました。チャムロンさんが立候補しているタイの総選挙(来月十三日)が気になってきました。みなさんはどうですか。



麦わら帽子に農民服姿で下草刈りをするチャムロンさん(岡山市内で7月23日)

わざがあります。少しだけでもどうですか。組合長はしきりに勧めました。しかし、彼は一向に感じません。「少し食べてたくさん仕事をしてくださるものを社会に還元するんです」と哲学を披露。「あなたもやってみたら。もう十三年になります。病氣一つしなくなりました」と逆に効用を説かれました。

来日初日、アジアの「ノーベル賞」といわれるマ

日本に来てでも堤防のゴミ拾い
麦わら帽姿で自ら草刈り実習

「彼はきつと、タイのガレッジと呼ばれる存在になる」。同行していたタイ紙記者の言葉に、こちらもうなずいていました。チャムロンさんが立候補しているタイの総選挙(来月十三日)が気になってきました。みなさんはどうですか。